ボランティア活動の状況!!

（ひまわり号）

（であいのコンサート）

ボランティア経験を生かし地域社会と関わります！

ボランティア活動をしたことで、異世代交流の中から地域での関わりを考えるようになった高校生もいます。

高校時代のボランティア経験が将来の進路につながり、多くの受講生たちが現在市内の施設などで働き、福祉関連の仕事で活躍しているケースもあります。

ボランティア経験が生かされ、地域社会という場で実を結んでいるような気がします。

ワクワクこまじゃりクラブ
（花だんづくり）

子どもまつり（竹とんぼづくり）

能代西高生が体験学習した海外ボランティア

能代西高校では、今年度創立60周年を迎え、記念事業のひとつとして、高校生国際交流研修会に代表生徒3人を参加させました。

この研修は、インドネシアで開催されました。東南アジアの森林の現状把握、森林資源造成活動としての植林ボランティアなどを含んでいます。全国の農業高校生や現地の高校生との交流を通じて、森林、林業に関する国際的な視野を広めることを目的としています。この研修に参加した3人の生徒に話を聞くことができました。

インドネシア国内の森林は商業伐採や違法伐採で減少の一途をたどっています。商業伐採の主な輸出先が日本であるという現実も知らされ、何か責任を感じたと言っていました。初めての植林体験、しかも気温33℃、湿度90パーセントの中汗だくになって頑張りました。地球温暖化防止や環境問題に目を向ける「きっかけ」になりました。

「目の輝きが違って帰ってきた」という校長先生の言葉が印象的でした。「もっと多くの生徒に参加させる機会を与えてあげたい」とも話してくださいました。

今まで関心のなかった、環境問題や自然の大切さ、リサイクル問題などに目を向けるようになり、素晴らしい体験をしてきました。国際的視野に立ち、この貴重な体験をこれからの人生に役立ててほしいと思いました。

（高校生国際交流研修会参加者の皆さん）

取材を終えて

ボランティア活動がもっとも盛んな時期は平成4・5年でその活動は全国的に評価されたといいます。

その当時は、特に高校生ボランティアを経験した多くの生徒が福祉の道に進学したそうです。

その人たちが今の能代の福祉施設に帰ってきて後輩を育てています。

人と人とのつながりが広がっていることを実感しました。